

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3392400028		
法人名	社会福祉法人 誠和		
事業所名	グループホーム あじさい		
所在地	岡山県瀬戸内市牛窓町長浜 1825-1		
自己評価作成日	平成22年10月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成22年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人内のネットワークの活用、連携することで、利用者のこれまでの生活との繋がりを大切にしています。利用者に安心して落ち着いた生活を提供することで第2の我が家と感じていただけるように、職員、利用者の和を大切にしています。共同生活を営む者同士の助け合いの関係ができるように援助しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然にふれあいながら、入居者の方々がなかよく穏やかに過ごされている様子がうかがえました。「あじさいだより」の発行や「グループホーム通信」の送付により家族や地域との交流がより深まっているようです。職員はミーティング、ケア会議等の研修や外部評価結果を基に次のステップへ向けて「目標達成計画」の作成しサービスの質の向上に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者の立場に立ち。基本的人権と自己決定を尊重し、地域に開かれた施設にできるように常に心がけるように、各種ミーティング、カンファレンス等でスタッフ全員で共有できるように話し合っている。	理念を基に職員みんなで考えた目標を標語にして、全員で共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアとの交流を重視し、小学生から幅広い年齢層で受け入れ交流を行っている。地域の面会者にも度々来ていただけるように対応等に配慮している。	地域の方とは在宅におられるときからのつながりを大切にして、交流をしている。「あじさいだより」の町内全戸への配布や行事の際には地域のボランティアの協力を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティア・利用者家族にグループホームを理解していただけるように進めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの実績、利用者の現状、行事、現在取り組んでいること等の報告、防災・緊急時対策などのご意見をいただき参考にしている。	運営推進会議を開催して、参加者に意見等いただき、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議を活かした取り組みは出来ていますが、参加者の選出を少し考慮されれば、より多くの意見がサービスの向上に活かされるのではないかと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議等で現状を報告し理解していただけるように説明し、介護保険上の疑問点など相談させてもらっている。	介護保険に関する疑問等の相談や待機者の情報を聞くなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人としてマニュアルを作成し、ミーティング等で内部研修を行い、利用者の行動を抑制しないように、見守り声かけ等に配慮している。	身体拘束をしないケアのマニュアルを作成し、内部研修で正しく理解して、支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関して内部研修を行い職員の意識を高め、職員全員で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について内部研修を行い、職員の意識を高めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の現在の状態を尋ね、これからの生活の説明を十分に行い、不安がないように家族の疑問点に答えるようにしている。外部評価の結果、情報の公表のシステムについても説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流の場を多く計画し、職員がご家族・利用者のご意見を聞けるようにしている。また、面会時などに利用者から気になることの訴えがなかったか職員全員で聞くように心がけ、近況の報告を行うようにしている。他にグループホーム通信でも近況報告できるように工夫している。	グループホーム通信の利用や面会時に意見、要望を聞くようにして、それらを運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が改善提案し、ミーティング等で話し合い、日頃より改善を意識している。	職員は運営に関する改善を日頃より意識し、ミーティング等で提案して運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が目標を持って働けるように年度始めに理想とする介護職に近づけるように目標を立て取り組んでいる。法人として職員の努力が評価できるようにキャリアアップのシステムを導入している。また、職員がゆとりを持って働けるように交代で現場から離れて休憩が取れるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体でキャリア別の研修会を行っている。全体研修では、希望の研修が受けられるように配慮している。その他、内部研修でも研修の機会を設けている。年に一度、各自のケアを振り返る意味でケアチェックを行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で各事業書とネットワーク作りを行い連携を取り、色々な情報交換を行っている。近隣のグループホーム同士の交流は出来ていないが、介護支援専門員協会を通じての交流、外部研修等で交流・意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分に傾聴することで不安に思うことの説明、生活の中で利用者に近づけるように工夫することで不安を軽減できるようにし、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活の様子を丁寧に聴くことで不安・要望を聞き取り、できるだけ安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの医療機関への受診を継続できるように、移送サービスを利用できるように支援している。その他利用者に合わせて利用できるサービスを把握できるように利用者・ご家族様から聞き取るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力に応じてできる部分については、取り組んでいただけるように声かけ・見守り、必要に応じて職員が手伝うことで共同生活者という実感を感じていただけるように心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流の場を多く設けることで、職員との信頼関係を深めている。普段より居室担当者がご家族様と連絡を取れる体制が出来ていて利用者のご家族との関係が保てる協力関係にある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者のこれまでの関係が保てるような外出、面会を歓迎している。また繰り返しの面会が出来ている。	入居前からの馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、面会や外出を歓迎して、支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室に閉じこもりがちにならないように声かけするようにしている。また、生活の中で自然に出来てきている役割を利用者同士認め合う場面も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の他事業所に移る場合などがあり、情報提供、利用者への面会などを行っている。また、退居時には必要に応じて相談に応じる旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活スタイルを尊重している。利用者の希望等の把握が困難な場合でも、普段の何気ない会話の中で聞き取るように努め、介護者本位の考えにならないように利用者の立場に立って検討するように心がけている。	1人ひとりの思いや意向は家族や本人から聞くようにしているが、希望等がなかなか表せない方には利用者の立場に立って考えるように心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、介護支援専門員から情報提供を受け、家族からの聞き取りを行うことで経過を把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康管理表、業務日誌、介護記録、気づきシート、モニタリングシート等で現状が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の気づきシートを基に、定期的・計画的なカンファレンスで現状に即した介護計画の作成に努めている。また、主治医・ご家族の意向を介護計画に反映している。	介護計画は出来るだけ家族にも協力してもらい、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見等を反映し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表を工夫し、色々なことが記入できるようにしている。他に日頃の気づきを記入できるシート、モニタリングシートを活用し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりに合わせて柔軟に対応できるように心がけている。受診などご家族の状況に合わせて移送サービスを利用できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、地域の面会者などの関わりが継続でき、利用者の生活に楽しみができるように努めている。		
30	(11)	mo 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりに合わせて、在宅生活のかかりつけ医を継続できるように支援し、日頃の状態を伝え、気になることは・疑問点は、問い合わせるようにしています。	かかりつけ医に日頃の状態や体調の変化等の情報提供をして、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内他部署の看護師と相談し連携をとっている。入院中に褥そうができて退院した利用者については、病院の指示に従い、他部署看護師に毎日処置することで完治に向かっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に普段の生活状況、健康状態などを情報提供している。また入院の状況に合わせて、診療計画を示していただくことで、できるだけ早期退院できるように取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に従って、今後についてご家族に希望を聞くようにしている。また、限界までグループホームで生活していただきたいが、限界の状態など家族が気になっている部分を折りにふれ説明するようにし、その際には他サービスについて相談に応じることを伝えている。	入居時に重度化や終末期に向けての意向等を聞くようにしている。看取りは今のところ経験がないが、必要が生じれば前向きに取り組む考えである。	重度化や終末期に向けた支援を前向きに取り組んでみてください。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が、定期的に救命講習をうけ、緊急時対応については、各種マニュアルを作成し、内部研修等とおして徹底・見直しを図っている。また、転倒などの事故については、ミーティングなどで振り返りを行い、対応を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時避難訓練は、夜間想定も含め年3回行っている。マニュアルについては、内部研修で徹底・見直しを図っている。他の災害についても法人全体での訓練に参加し協力体制がある。また、市の指導に従い、防火管理者講習を今年度受講した。	法人全体として地震・水害等の避難訓練を地域との協力体制を築いて行っている。火災時の避難訓練はホームだけでも年3回して、マニュアル等の整備も出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員と利用者の関係が構築できる反面、馴れ合い的な声かけ、口調に失礼がないように意識し、利用者一人ひとりの人格を尊重し、個別にさりげない声かけができるように心がけている。	職員の異動があまりないので、利用者との関係は築きやすいが、馴れ合いにならないよう特に言葉づかいには気をつけて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のさりげない声かけの中で自己決定に繋ぐことができるように、細かい声かけを目指している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重し、職員はそれに合わせるようにしている。生活のそれぞれの場面で利用者の意向を聞くような声かけに配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時など着替えの準備の際に、好みを聞きながら準備を行うように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の利用者の様子に配慮しながら無理のない範囲内で声かけし手伝っていただいている。また、食事はゆっくり食べていただけるように配慮している。	利用者のその日の状態により形態もおかゆ、おにぎり等にしてゆっくりたべていただけるよう配慮している。また無理のない範囲で職員と一緒に準備等をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせた量。形状などに配慮し、食事摂取がスムーズに進むように努めている。特に水分量に関しては、摂取が難しい方は、一日の摂取量をきちんと把握するようにしている。また、問題点などが出た場合には、法人の栄養士に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに合わせ、さりげなく声かけしながら見守り・介助を行っている。必要に応じて協力歯科医院に相談し、指導して貰っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声かけでできるだけ失敗が少ないように援助するように努めている。	声かけや誘導により、排泄の自立に向けた支援が出来る。入所時紙パンツの方が布パンツに代わられた方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩、ラジオ体操、リハビリ体操等出来るだけ身体を動かす機会を設けている。便秘気味の方の水分摂取には、特に気を付けている。必要に応じて主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に合わせることは難しいが、利用者それぞれのその日の体調、精神状態に合わせ、負担にならないように配慮している。	日々、様子を見ながら出来るだけ希望にそって、個々に入浴を楽しく出来るように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣、健康状態に合わせて必要な休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より処方の変更時には、薬の説明を受け、書面で職員が理解できるようにしている。症状の変化については、随時主治医に報告・相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの楽しみがグループホームの生活の中で継続、活かせるように一人ひとりを把握し、その場に合わせた支援を行うように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な近くへの外出は、随時行えている。墓参り等については、家族の協力で行えている。普段からご本人の希望を把握するように努めている。	近所への外出は日常的に出来る。また地域の方や家族の協力で墓参り等もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状態により自己管理しておられる利用者もいる。そうでない利用者についても、法人での夏祭り、個人の買い物時などお金を持っていたけように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使用しておられる利用者もあり、毎日のように家族と連絡を取っておられる。希望にそってご家族への電話の取り次ぎは行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を出せるように配慮している。リビングにソファ、和室にこたつを置き、利用者それぞれに思い思いの場所で過ごせるように配置にも工夫している。	共用の空間は居心地よく過ごせるような雰囲気になっている。温度調整は入居者の方にとっての適温を心がけている。居室の換気にも気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にもウッドデッキ等他利用者と離れても過ごせるように、また気の合う者同士一緒に過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室については、ご本人とご家族で相談し、使い慣れた愛着のある家具などを置き、ご本人が落ち着けるように自由に使っていたている。カーテンは、ご本人・ご家族の好みの物を持ってきていただいている。	居室は使い慣れた家具やTVなどを置き、本人が落ち着いて過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境で手すり等を使ってできるだけ、安全に生活できるように配慮している。利用者一人ひとりの状態に合わせてシルバーカー、車椅子を使用している。		